



＜総領事館ニュース＞

☆第14回漢字カップを実施

3月5日、アイルランガ大学において、第14回漢字カップを開催しました。漢字カップは、多くの日本語学習者が苦手としている漢字をクイズ形式で出題し、漢字の読みや書きとり能力を競う大会で、漢字に対する苦手意識を払拭し、漢字学習のモチベーションを向上させるために2002年より毎年開催しているものです。今年は初級の部に133名、中級の部に32名が参加しました。初級の部はブラウイジャヤ大学の学生が優勝し、中級の部はアイルランガ大学チームが優勝しました。優勝したアイルランガ大学チームは、エキシビジョンマッチで、SJS 小学6年生チーム、SJS 中学1年生チーム及びプルサダチームとも対決しましたが、惜しくも3位となりました。加藤総領事は、挨拶で「東ジャワ州外であるスマランからも出場があり喜ばしい。東ジャワ州発祥の漢字カップが東ジャワ州以外にも知れ渡ったことを誇りに思う。出場者は長い間同大会に向けて勉強をしてきたと思うので、思う存分成果を発揮していただきたい。」と参加者を激励しました。ご協力頂いた皆様にお礼申し上げます。



中級の部予選の様子



優勝したアイルランガ大学チーム

☆平成27年度文部科学省国費留学生に対する渡日前オリエンテーション・壮行会の実施

3月21日、総領事公邸に於いて標記オリエンテーションが開催されました。今回参加したのは、東ジャワ州から出発する3名の国費留学生です。冒頭、加藤総領事より、「国費留学生が東ジャワ州から選出されたこと、日本に留学している留学生のうち、インドネシアからの国費留学生の割合が高いことを嬉しく思う。渡日に際し、多くの不安があると思うが、諸先輩方のアドバイスを元に安心して日本に行って欲しい。帰国後はインドネシアと日本の架け橋となって欲しい」と挨拶がありました。また、元留学生を代表して、ガンディ氏（アイルランガ大学）及びインドラ氏（スラバヤ国立電気専門学校）との質疑応答の時間が設けられ、日本での生活事情、大学での授業の進め方、家族とのコミュニケーションツール、日本人との接し方等について情報共有がありました。参加者は、本オリエンテーションを通じて多くの問題点が解決するとともに、同じ時期に渡日する学生同士のネットワーク構築によって不安が解消されたようで大変満足した様子でした。



オリエンテーションの様子



参加者による記念写真

☆「東ジャワ州マラン県におけるイスラム小学校の施設拡充計画」供与式典

3月23日、マラン県マンバウル・ウルム・イスラム小学校において、日本政府が草の根・人間の安全保障無償資金協力の枠組みで支援した小学校施設拡充計画の供与式典が開催されました。本件は、同県での教育環境向上を目的として、同校で不足していた3教室及び図書室新校舎を建設、さらにその備品を整備し、82,091米ドルを上限額として資金供与・実施したものです。同小学校を運営している、マンバウル・ウルム財団会長は、「教室や備品が数が不足し、教育環境が不十分であったが、日本政府から支援をいただくことができた。教師、事務員、生徒たちと責任をもって管理するつもりである。日本政府、日本国民へ感謝申し上げる。」と述べ、加藤総領事は「今回の支援は、日本国民からのもの。皆さんが日本国民の善意を受け止め、今回改築された校舎の管理をきちんと行っていただきたい。同支援をきっかけに、生徒の皆さんが日本についてより見識を深め、将来日本へ進学することを期待している。」と述べました。また、当日は、マラン県宗教局長も出席し、同局長から日本政府に対し、謝辞が述べられました。



記念銘板へのサインの様子



日本政府から供与された新校舎

☆日系企業向け法務セミナーの実施

3月29日、総領事館講堂においてインドネシア法務問題をテーマにした日系企業向け法務セミナーを開催しました。本セミナーは、当館で毎月実施している「在スラバヤ日系企業リーガル・コンサルテーション窓口」受託弁護士である、アンダーソン・毛利・友常法律事務所の池田弁護士を講師にお招きし、ジャパンプラブ法人部会の共催により開催され、約15名の日系企業関係者の参加がありました。当日のセミナーでは、池田弁護士から「労務・社内不正問題等の事例解説」というサブテーマで、日々の会社操業に際して起こりうる様々な問題について、実際の事例を当てはめた詳細な解説をして頂き、参加者から好評を得ました。ご協力頂いた法人部会の皆様、ご出席頂いた日系企業関係者の皆様にお礼申し上げます。当館としましては、引き続き日系企業の皆様のより一層の安定操業を支援していきたいと考えておりますので、ご理解・ご協力宜しくお願い致します。



池田弁護士の挨拶



セミナーの様子